

# これからを生きていく子どもたちが 自由に羽ばたける社会をつくりたい



## 金村りゅうな



小学生の娘と5歳、4歳になる息子をもつ3児の父  
議員秘書を経て児童福祉施設を8カ所経営するなど  
官民両方の立場から社会問題の解決に取り組む。

座右の銘は「向き不向きより前向きに！」

子を持つ親は、少なからずこの子達が今後生きていく日本社会の未来に不安を感じていると思います。税収の何倍もの借金を抱え、高齢化が進み、このままいけば、これから社会に出る子ども達は少ない人数で多くの高齢者を支えていかなければいけません。子どもだけでなくこれから老後を迎える高齢者の皆さまや、今まで社会を支えてきた現役世代の方々も先の見えない不安を抱えているのではないかでしょか。

私はこれまで障がいを抱える子ども達と、そのご家族に寄り添い、療育

を通じて社会参加を手助けする児童福祉施設を経営してきました。最初は不安に押し潰され、元気に園を卒業していく次第に笑顔になり、子ども達にも自信がついて、次第に温かいサポートに触れて、温かいサポートに触れて、次第に笑顔になり、子ども達にも自信がついて、元気に園を卒業していくのを送り出していました。ただその中でどうしても十分に優しくしてくれることで、社会はこの子に対して抱えるだろうか」という不安が付き纏います。自分の暮らしさえ大変な社会で障がいを持つ子ども達に対する受け止めは決して温かいものではありません。

**障がいは社会をより見えやすくする**

障がいを持つ子ども達に関わって思うのは、障がいを持つ人に優しい社会は障がいを持たない人にとっては、なおさら優しい社会だということです。優しい社会といふことは、住む人に心の余裕の人でも受け入れられる柔軟性を持つている社会が、あり、社会がどんな人にとっても意識には上らないレベルで、少しづつストレスになつているような事も往々にしてあると思います。

**今の時代に求められる政治家の価値とは**

政治家はよく選挙の際、「皆さんの声を代弁します」と演説します。ただ、現代の政治家はそこにもう少し注釈をつける必要があると私は感じています。

今の時代、具体的に



その意味で、障がいは社会をより見えやすくするという点で、本当に実感した視点です。

「こんなモノが欲しい」という住民の声はあまり聞かなくなっている一方で、未来に対する漠然とした不安や不満の声が高まっています。今国会を見ていれば、そうした不満の声を文字通り代弁して総理や大臣にぶつける党もありますが、この厳しい時代にあって政治家が国民に示す価値とは、国民の不満や不安の声の「原因」を解消する、国家の経営者としての能力ではないでしょうか。

私自身は優秀な経営者であつたかどうか分かりませんが、経営者の役割はたつた2つしかないと考えています。1つは先を見据えて未来を予測し、その変化に対応できる様予め手を打つていくこと。

**夢のある未来を創るための挑戦**

少子高齢化の問題は、私が小学生の時から既に教科書に記載されていましたが、その時に効果的な対策が打てていれば、私たちもつと違つた今生きているかも知れません。

経営者の責務は企業の安定経営と従業員の幸せを同時に達成することです。その視点から言えば、國民が安心して家庭を築

き、子を持ちたいと願うなる人材を育てること。この2つに心血を注ぐことが経営者の役割だと思います。これは政治にも全く同様に当て嵌まるのではないかでしょうか。

また、後進育成の面で言えば、日本の子供たちの中で政治家は、なりたい職業ランキングの底辺に位置しています。「政策よりも挨拶回り」と言われる古い政治の体质にも原因があります。政治家が本気の議論を戦わせ、練られた政策がしっかり機能する格好良い日本を子供たちに魅せることも、私の大きな夢の一つです。

# あたらしい政治に必要なのは 「やさしい経営」という視点